

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200552		
法人名	株式会社 AIコーポレーション		
事業所名	グループホーム 愛の家(さくら)		
所在地	倉敷市児島下の町7丁目1-39		
自己評価作成日	平成 28年 3月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigekensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200552-008&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaigekensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3390200552-008&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 28年 3月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切に「ここに来て良かった」と思えるよう日々関わっていく中で「常に笑顔でみんなに優しく」を理念に掲げ、明るく、そして少しでも楽しんで頂けるような事業所を目指し取り組んでいる。  
食事作りに関しては地域から新鮮で旬な食材を届けてもらっている。  
職員は外部の研修に積極的に参加しスキルアップを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長交代して日が浅いにもかかわらず、利用者に満足していただけるように前向きに行動している管理者の姿が見受けられる。スタッフも利用者に対して、素直に利用者さんに反応し、少しでも安心していただけているように心がけている姿がほのぼのとしていた。組織の新体制も開設者の気持ちが伝わりつつあるので、さらに組織作りに励んでほしい。わずかな評価時間でしたが、まだまだ成熟してはいませんが、一丸となって利用者満足にさらなる改革を行っているよう感じた。とにかく利用者の笑顔が印象的でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「常に笑顔でみんなに優しく」の理念を事業所内に掲げ職員の意識統一を図っている	前施設長から引き継ぎさらに理念の意識統一を目指し、「常に笑顔でみんなに優しく」の理念を基本に立ち戻り、具体的に実践しようと心がけている。	目の届くところに理念書を掲げ、スタッフ全員がどうすれば実践できるかを考えるため、常時目に触れ心がけていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での大きなお祭り等を通じての交流を図っている	地域の行事や催しには積極的に参加し、交流を図っている。	事業所の存在価値を高めるためにも地域参加をし、地域のリーダーと将来を見据えた地域に溶け込んだ施設を目指していただきたい。さらに、お祭りだけでなく、地域のイベント 清掃、見守り隊などにも積極的に参加してみてもはどうでしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、特に活動していない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者は市の職員、民生委員、家族代表、老人会会長、地域のグループホームの方が参加され経過報告や現在取り組んでいる内容について報告し、要望も頂きサービスの向上を図っている	運営推進会議にてた要望は、スタッフに伝え、様々な内容検討をしている。	要望については、行動目標を書面として表し、次回の推進会議で途中経過を報告し、難しい要望については協力していただくよう配慮していくことで、地域存在の要になってほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センター、市の職員の方とは運営推進会議に参加して頂き連絡や報告し連携している	包括支援センター、市の職員の方とは運営推進会議においての記録を基に、連携している。	運営推進会議だけにとどまらず、日ごろから近隣とのご縁を深め、運営推進会議で得た内容をさらに検討実践できる体制を望む。また、小学校や幼稚園の先生方とも連携を図ってほしい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの戸の電子ロックは状況に応じて使い分けている。また、事務所を通じて事業所内は自由に移動できるようにしている	身体拘束や徘徊しそうな利用者方にも本人や家族とも膝を割って相談をしている。	利用者一人ひとりにできる限り時間を割き、話を聞いてあげたり、係わりを持つことで、多少回避できるのでは。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成して周知に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、学習する機会を設けたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を掛け、契約書、重要事項説明書の内容を詳しく説明し理解、納得して頂き同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に要望等を投書できるよう箱を設置している。面会、運営推進会議で問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている	投書箱の設置は確認できて、前向きに意見を聞く姿勢は伺える。なかなか投書が少ないので、家族などが来られた時は意見等を確認している。	意見を聞いてもなかなか答えてくれない方が多いので、こちらから「何かある?」「こんなことはどうですか?」「あれについてはどう思われますか?」などと質問型で確認した方が前向きに改善項目になると思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送り時に意見、要望を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを取り、問いかけたり聞き出したりし業務の見直しやケアの向上に繋げている。	感謝の言葉「ありがとう」を言える関係づくりを全面的に推奨している。	業務の消化作業や単なる会議をしているなどの形だけではなく、将来を見据えた内容が伴った職員の立場の組織づくりが理想なので、ゆっくりと取り組んでほしい。また、要望や回答も文書にして残したほうが望ましいと思います。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、資格取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については情報を収集し職員の段階に応じなるべく多くの職員が参加できるようにしている。内部研修は定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所とは運営推進会議で交流し、意見交換を行ってサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入前には本人に会い、生活の状況把握に努めている。少しでもご本人の不安が解消されるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることや、サービスの利用状況などこれまでの経緯やご家族の想いをお聞きし家族の不安や要望に対してどのような対応ができるか事前に話し合いをして信頼関係に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り柔軟な対応を行い、必要に応じ他の事業所のサービスに繋げている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に人生の先輩であるという考えを共有している。また、ケアプランにおいては洗濯物など習慣づけてできるようなお手伝いの内容を位置づけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のコミュニケーションや必要時の電話にてやり取りを行い、意思疎通に努めている。また、面会の少ない方には電話などで本人との関係が途切れないよう留意している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り、法事、里帰り(自宅)などご家族の皆様にご協力して頂きながら支援している	ご家族に連絡をして常時支援に心掛けています。	面会時にはもっと家族と信頼関係を深めるために面会だけにとらわれず、電話などで、密に関係作りをしてはいいかがでしょうか？ドライブなどで今まで住んでいたところの訪問もより利用者と馴染めると思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中のフロアでの談笑など多く見られる。トラブルになりそうな時には職員が間に入り対応している。ゲームや体操なども行い、みんなで共有する時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まいでもこれまでの暮らしが継続できるように支援の内容、注意点などの情報提供を行いきめ細かい連携を心がけている。退居後も様子を尋ねるなどご家族の相談に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おやつの時などに自然な形で希望や意向を聞き取り、できることは積極的に行っている。また、意思疎通の困難な方については日々の関わりの中で言葉や表情などから把握できるように努めている	日々、生活の中で思いやりを中心とした対応を心掛けている。	何かをしてやろうという行為も大事ですが、そばにいてだけでも良いので、そばに付き添っている安心感をあたえ、利用者が話しやすい環境づくりやゆとりも必要でしょうし、育むことも大切にしてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のケアに活かすことを説明し、家族、親族、友人等から情報を得て職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解しながら行動や動作、精神面も含め毎日の様子は個人記録や介護日誌に記入し申し送り等でも本人の状態を全員で確認して心身の状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメント時にカンファレンスを開催している。出席できなかった職員からも意見を聞きケアプランの立案をしている	毎月、ユニットごとにカンファレンスを開催することで、職員全体で納得した介護計画を立案している。	職員間のコミュニケーションを図り、何でも言える関係ができれば、介護記録やモニタリングに反映できる可能性が高まると思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック、食事、水分摂取量、排泄等日々の様子や状態変化はケア記録に記入し、介護計画の見直し、評価を実施している。その他必要なことは申し送り等に記入し勤務開始前の確認は義務付け全員が把握できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や家族の状況に応じ柔軟な対応に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市介護保険課、地域包括支援センター、民生委員、老人会などの方に参加していただき地域情報の収集や交流に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医とかかりつけ医とのスムーズな情報交換が行えるように努めている。また、必要に応じてかかりつけ医との連携も家族と協力して行っている	医師と気楽に話ができる関係が築けていて、利用者も医師との対話を楽しみにしている。	医師以外の医療関係者との対話も不可欠である。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、そのため協力医療機関へは事業所が対応している。受診が柔軟に対応できる環境を整備し入居者の健康管理に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書の提出や口頭での情報提供を行い、入院中は職員が見舞うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針についての説明を行っている。必要に応じて本人やご家族の要望を確認し、様々な相談にいつでも答えられるようにしている。他の事業所や医療機関とも普段から連携をして終末期に備えていけるように努めている	契約時は、特に重度化の方針の共有を促がしている。また、希望の入院先を医師と連携して入院できるように相談し、家族と今後について綿密に取り込む機会を設けている。	重度化の話合いの一部始終をスタッフに伝え、家族の一員であるように参画していくことが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、各ユニットに配置している。全ての職員を対象に救急講習の研修も検討している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施や定期点検を行っている。避難訓練の際には合わせて通報、消火等の訓練も行っている	確実に災害対策を行い、地域との連携が取れている。	消防・警察とも相談して、避難場所の確認、避難経路や通報がスムーズにできる体制を(パニックになり場所や電話番号も伝えられない状況になりやすいため)日ごろから検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけ自己決定しやすい言葉かけをするように努めている。	地元の利用者には、今まで馴染んできた方言を多用できるように地元の職員がさりげない言葉かけをし、親しみやすさを与えている。また、プライバシーを尊重して暮らしぶりを見守っている。また、本人の自己決定に対しても「ありがとう」の感謝の意を伝えている。	人生の先輩だからこそ、敬意を払い、さりげないケアを当たり前に行えるように心がけていただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて本人が答えやすく選びやすいように声かけをしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせて、その日その時の本人の体調や様子を見ながら本人の希望を尋ねたり相談しながら過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	中には洋服を自分で選んで着ている方もいる。散髪も月1回事業所に来ていただいて実施している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や内容などできる範囲で好みに合ったものを提供している。食材は新鮮で旬な物を地域の業者から仕入れている。ハンドミキサーでミキサー・刻み食などにも対応している。また、必要に応じ高カロリーの商品なども対応している	時々、ハンバーガーやホッカ弁当などの外食で食事の楽しみが増すように取り計っている。カップラーメンも意外に人気があり、献立に沿って希望に応じていつでも食せれるよう在庫している。	注文電話の際にもそばにいて、利用者があたかも自分が電話しているような配慮をしたり、相談の声掛けしたりできる体制やお店に取りに行く時も利用者とともに足を運んで家庭的な対応を心掛けていただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量は細かくチェックし毎日記録している。メニューは食事担当の職員がその都度考えてバランスの良い食事作りに努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにてうがい、歯磨きを実施し、義歯は週2回洗浄剤に漬けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて一人ひとりの排泄のパターンや状況を把握している。必要に応じて声かけ・誘導をしている。状況に応じて尿とりパットや紙パンツを使用しているが適宜検討し変更を行っている	その人その人の様子を日ごろから観察し、変化を感じ取り、適宜言葉かけをしている。紙パンツ等衛生管理ができるように気配っている。	本来は一人で排泄ができるのが当たり前なので、できる限り一人でできるように見守る勇氣も必要です。さらなる自立に向けたケアをお勧めします。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にヨーグルトやバナナを取り入れたりラジオ体操や散歩などの適度な運動を行うようにしている。便秘の方には十分な水分補給を行いながら繊維質の多い食材を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調の観察を行いながら入浴剤を使用しゆったりと入浴できるよう心掛けている。また、シャワーチェア等の福祉用具を活用して安全な入浴環境の整備に努めている	週2回は必ず入浴していただいている。また、入浴をしたくない人にも、その人に合わせて言葉かけを工夫し、促している。	スタッフの都合にもよるが、時間の許す限り入浴好きな方には入浴を進め、入浴を嫌がる方には、足湯などの細かい配慮で、楽しさを与えて欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動を促し生活リズムを整えながら一人ひとりの体調や表情を見て休息が摂れる様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は個人別に分けて袋の中から夜勤者が翌日分を用意し、特定の出勤帯の職員が配布するようにしている。誤薬を防止するため名前、日付、内服の確認を行っている。処方の変更は協力医と随時連携を取り合っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなどの役割をケアプランに位置付けていて一緒に取り組めるようにしている。また趣味や楽しみごとを見出しできる限り実践できるよう援助に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気候の良い日や本人が希望する場合は時間を作り実施している。また外出等も計画し四季の変化を感じられるように努めている	外出できないときには、さりげなくベランダに出していただき、新鮮な空気に触れていただいている。四季の変化も体感していただいている。また、近隣への散歩や花見なども積極的に進めている。	散歩がてらに、利用者の調子が良い時には、消防署や警察に足を運んで地域の中での存在を感じられるような配慮を望む。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金での買い物ができるように契約時に家族に説明し同意を得ている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は希望に応じて本人に渡し、ゆっくりと会話を楽しまれている。希望があればご家族の了解を得て事業所から電話をすることもある。今後、年賀状や手紙が出せるよう支援していきたい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには利用者様と一緒に作った作品や花を飾り季節感を感じて頂くようにしている。またトイレやお風呂の出入り口には大きな表示板を取り付け色などに工夫し不快にならないよう配慮している	トイレや壁に季節感が伝わるような配慮をしている。	リビングの壁にも多少スペースが見受けられるので、遠足や記念の集合写真や食事時の楽しさが満ち溢れたスナップ写真などの掲示を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを設置している。テーブルの配置は随時変更して変化を出せるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真等愛着のある物を持参して頂き個人個人に合わせた部屋作りを心がけている	ベッド生活であっても、利用者の家庭と同じような部屋作りをし、まさに自宅で生活をしている雰囲気づくりに徹している。	居心地良い生活をするためにも利用者の体調に合わせた部屋の照度、温度、湿度調整にも気配ってほしい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は分かり易いように大きな表示をしている。利用者の身体状況に合わせて環境整備に努めている		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390200552		
法人名	株式会社 AIコーポレーション		
事業所名	グループホーム 愛の家(ひまわり)		
所在地	倉敷市児島下の町7丁目1-39		
自己評価作成日	平成 28年 3月 10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;jigyosyoCd=3390200552-008&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&amp;jigyosyoCd=3390200552-008&amp;PrefCd=33&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 28年 3月 31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気大切に「ここに来て良かった」と思えるよう日々関わっていく中で「常に笑顔でみんなに優しく」を理念に掲げ、明るく、そして少しでも楽しんで頂けるような事業所を目指し取り組んでいる。  
食事作りに関しては地域から新鮮で旬な食材を届けてもらっている。  
職員は外部の研修に積極的に参加しスキルアップを図っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設長交代して日が浅いにもかかわらず、利用者に満足していただけるように前向きに行動している管理者の姿が見受けられる。スタッフも利用者に対して、素直に利用者さんに反応し、少しでも安心していただけているように心がけている姿がほのぼのとしていた。組織の新体制も開設者の気持ちが伝わりつつあるので、さらに組織作りに励んでほしい。わずかな評価時間でしたが、まだまだ成熟してはいませんが、一丸となって利用者満足にさらなる改革を行っているよう感じた。とにかく利用者の笑顔が印象的でした。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「常に笑顔でみんなに優しく」の理念を事業所内に掲げ職員の意識統一を図っている	前施設長から引き継ぎさらに理念の意識統一を目指し、「常に笑顔でみんなに優しく」の理念を基本に立ち戻り、具体的に実践しようと心がけている。	目の届くところに理念書を掲げ、スタッフ全員がどうすれば実践できるかを考えるため、常時目に触れ心がけていただきたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域での大きなお祭り等を通じての交流を図っている	地域の行事や催しには積極的に参加し、交流を図っている。	事業所の存在価値を高めるためにも地域参加をし、地域のリーダーと将来を見据えた地域に溶け込んだ施設を目指していただきたい。さらに、お祭りだけでなく、地域のイベント 清掃、見守り隊などにも積極的に参加してみてもどうでしょうか？
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在、特に活動していない		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者は市の職員、民生委員、家族代表、老人会会長、地域のグループホームの方が参加され経過報告や現在取り組んでいる内容について報告し、要望も頂きサービスの向上を図っている	運営推進会議にでた要望は、スタッフに伝え、様々な内容検討をしている。	要望については、行動目標を書面として表し、次回の推進会議で途中経過を報告し、難しい要望については協力していただくよう配慮していくことで、地域存在の要になってほしい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センター、市の職員の方とは運営推進会議に参加して頂き連絡や報告し連携している	包括支援センター、市の職員の方とは運営推進会議においての記録を基に、連携している。	運営推進会議だけにとどまらず、日ごろから近隣とのご縁を深め、運営推進会議で得た内容をさらに検討実践できる体制を望む。また、小学校や幼稚園の先生方とも連携を図ってほしい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニットの戸の電子ロックは状況に応じて使い分けている。また、事務所を通じて事業所内は自由に移動できるようにしている	身体拘束や徘徊しそうな利用者方にも本人や家族とも膝を割って相談をしている。	利用者一人ひとりのできる限り時間を割り、話を聞いてあげたり、係わりを持つことで、多少回避できるのでは。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成して周知に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、学習する機会を設けたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には時間を掛け、契約書、重要事項説明書の内容を詳しく説明し理解、納得して頂き同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関入口に要望等を投書できるような箱を設置している。面会、運営推進会議で問いかけ何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに努めている	投書箱の設置は確認できて、前向きに意見を聞く姿勢は伺える。なかなか投書が少ないので、家族などが来られた時は意見等を確認している。	意見を聞いてもなかなか答えてくれない方が多いので、こちらから「何かある?」「こんなことはどうですか?」「あれについてはどう思われますか?」などと質問型で確認した方が前向きに改善項目になると思います。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議や申し送り時に意見、要望を聞くようにしている。日頃からコミュニケーションを取り、問いかけたり聞き出したりし業務の見直しやケアの向上に繋げている。	感謝の言葉「ありがとう」を言える関係づくりを全面的に推奨している。	業務の消化作業や単なる会議をしているなどの形だけではなく、将来を見据えた内容が伴った職員の立場の組織づくりが理想なので、ゆっくりと取り組んでほしい。また、要望や回答も文書にして残したほうが望ましいと思います。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた支援を行い、資格取得後は本人の意向を重視しながら職場内で活かせる労働環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修については情報を収集し職員の段階に応じなるべく多くの職員が参加できるようにしている。内部研修は定期的に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所とは運営推進会議で交流し、意見交換を行ってサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの導入前には本人に会い、生活の状況把握に努めている。少しでもご本人の不安が解消されるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることや、サービスの利用状況などこれまでの経緯やご家族の想いをお聞きし家族の不安や要望に対してどのような対応ができるか事前に話し合いをして信頼関係に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	可能な限り柔軟な対応を行い、必要に応じ他の事業所のサービスに繋げている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に人生の先輩であるという考えを共有している。また、ケアプランにおいては洗濯物など習慣づけてできるようなお手伝いの内容を位置づけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時のコミュニケーションや必要時の電話にてやり取りを行い、意思疎通に努めている。また、面会の少ない方には電話などで本人との関係が途切れないよう留意している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参り、法事、里帰り(自宅)などご家族の皆様にご協力して頂きながら支援している	ご家族に連絡をして常時支援に心掛けている。	面会時にはもっと家族と信頼関係を深めるために面会だけにとらわれず、電話などで、密に関係作りをしてはいるかがでしょうか？ドライブなどで今まで住んでいたところの訪問もより利用者との馴染めると思います。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中のフロアでの談笑など多く見られる。トラブルになりそうな時には職員が間に入り対応している。ゲームや体操なども行い、みんなで共有する時間を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	新しい住まいでもこれまでの暮らしが継続できるように支援の内容、注意点などの情報提供を行いきめ細かい連携を心がけている。退居後も様子を尋ねるなどご家族の相談に乗っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	おやつの時などに自然な形で希望や意向を聞き取り、できることは積極的に行っている。また、意思疎通の困難な方については日々の関わりの中で言葉や表情などから把握できるように努めている	日々、生活の中で思いやりを中心とした対応を心掛けている。	何かをしてやろうという行為も大事ですが、そばにいただけでも良いので、そばに付き添っている安心感をあたえ、利用者が話しやすい環境づくりやゆとりも必要でしょうし、育むことも大切にしてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人のケアに活かすことを説明し、家族、親族、友人等から情報を得て職員間で共有している		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムを理解しながら行動や動作、精神面も含め毎日の様子は個人記録や介護日誌に記入し申し送り等でも本人の状態を全員で確認して心身の状況の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、アセスメント時にカンファレンスを開催している。出席できなかった職員からも意見を聞きケアプランの立案をしている	毎月、ユニットごとにカンファレンスを開催することで、職員全体で納得した介護計画を立案している。	職員間のコミュニケーションを図り、何でも言える関係ができれば、介護記録やモニタリングに反映できる可能性が高まると思います。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	健康チェック、食事、水分摂取量、排泄等日々の様子や状態変化はケア記録に記入し、介護計画の見直し、評価を実施している。その他必要なことは申し送り等に記入し勤務開始前の確認は義務付け全員が把握できるようにしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	緊急時や家族の状況に応じ柔軟な対応に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市介護保険課、地域包括支援センター、民生委員、老人会などの方に参加していただき地域情報の収集や交流に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医とかかりつけ医とのスムーズな情報交換が行えるように努めている。また、必要に応じてかかりつけ医との連携も家族と協力して行っている	医師と気楽に話ができる関係が築けていて、利用者も医師との対話を楽しみにしている。	医師以外の医療関係者との対話も不可欠である。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師を配置しており、そのため協力医療機関へは事業所が対応している。受診が柔軟に対応できる環境を整備し入居者の健康管理に繋げている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護添書の提出や口頭での情報提供を行い、入院中は職員が見舞うようにしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針についての説明を行っている。必要に応じて本人やご家族の要望を確認し、様々な相談にいつでも答えられるようにしている。他の事業所や医療機関とも普段から連携をして終末期に備えていけるように努めている	契約時は、特に重度化の方針の共有を促がしている。また、希望の入院先を医師と連携して入院できるように相談し、家族と今後について綿密に取り込む機会を設けている。	重度化の話し合いの一部始終をスタッフに伝え、家族の一員であるように参画していくことが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、各ユニットに配置している。全ての職員を対象に救急講習の研修も検討している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練の実施や定期点検を行っている。避難訓練の際には合わせて通報、消火等の訓練も行っている	確実に災害対策を行い、地域との連携が取れている。	消防・警察とも相談して、避難場所の確認、避難経路や通報がスムーズにできる体制を(パニックになり場所や電話番号も伝えられない状況になりやすいため)日ごろから検討してほしい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大切に、さりげないケアを心がけ自己決定しやすい言葉がけをするように努めている。	地元の利用者には、今まで馴染んで生きた方言を多用できるように地元の職員がさりげない言葉かけをし、親しみやすさを与えている。また、プライバシーを尊重して暮らしぶりを見守っている。また、本人の自己決定に対しても「ありがとう」の感謝の意を伝えている。	人生の先輩だからこそ、敬意を払い、さりげないケアを当たり前に行えるように心がけていただきたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの状態に合わせて本人が答えやすく選びやすいように声をかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態に合わせ、その日その時の本人の体調や様子を見ながら本人の希望を尋ねたり相談しながら過ごしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	中には洋服を自分で選んで着ている方もいる。散髪も月1回事業所に来ていただいて実施している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事形態や内容などできる範囲で好みに合ったものを提供している。食材は新鮮で旬な物を地域の業者から仕入れている。ハンドミキサーでミキサー・刻み食などにも対応している。また、必要に応じ高カロリーの食品なども対応している	時々、ハンバーガーやホッカ弁当などの外食で食事の楽しみが増すように取り計っている。カップラーメンも意外に人気があり、献立に沿って希望に応じていつでも食せれるよう在庫している。	注文電話の際にもそばにいて、利用者があたかも自分が電話しているような配慮をしたり、相談の声掛けしたりできる体制やお店に取りに行く時も利用者とともに足を運んで家庭的な対応を心掛けていただきたい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事の摂取量は細かくチェックし毎日記録している。メニューは食事担当の職員がその都度考えてバランスの良い食事作りに努めている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけにてうがい、歯磨きを実施し、義歯は週2回洗浄剤に漬けている		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表にて一人ひとりの排泄のパターンや状況を把握している。必要に応じて声かけ・誘導をしている。状況に応じて尿とりパットや紙パンツを使用しているが適宜検討し変更を行っている	その人その人の様子を日ごろから観察し、変化を感じ取り、適宜言葉かけをしている。紙パンツ等衛生管理ができるように気配っている。	本来は一人で排泄ができるのが当たり前なので、できる限り一人でできるように見守る勇気も必要です。さらなる自立に向けたケアをお勧めします。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事にヨーグルトやバナナを取り入れたりラジオ体操や散歩などの適度な運動を行うようにしている。便秘の方には十分な水分補給を行いながら繊維質の多い食材を提供している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調の観察を行いながら入浴剤を使用しゆったりと入浴できるよう心掛けている。また、シャワーチェア等の福祉用具を活用して安全な入浴環境の整備に努めている	週2回は必ず入浴していただいている。また、入浴をしたくない人にも、その人に合わせて言葉かけを工夫し、促している。	スタッフの都合にもよるが、時間の許す限り入浴好きな方には入浴を進め、入浴を嫌がる方には、足湯などの細かい配慮で、楽しさを与えて欲しい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	なるべく日中は活動を促し生活リズムを整えながら一人ひとりの体調や表情を見て休息が摂れる様に支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は個人別に付けて袋の中から役勤者が翌日分を用意し、特定の出勤帯の職員が配布するようにしている。誤薬を防止するため名前、日付、内服の確認を行っている。処方の変更は協力医と随時連携を取り合っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみなどの役割をケアプランに位置付けていて一緒に取り組めるようにしている。また趣味や楽しみごとを見出しできる限り実践できるよう援助に努めている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気や気候の良い日や本人が希望する場合は時間を作り実施している。また外出等も計画し四季の変化を感じられるように努めている	外出できないときには、さりげなくベランダに出していただき、新鮮な空気に触れていただいている。四季の変化も体感していただいている。また、近隣への散歩や花見なども積極的に進めている。	散歩がてらに、利用者の調子が良い時には、消防署や警察に足を運んで地域の中での存在を感じられるような配慮を望む。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	立替金での買い物ができるように契約時に家族に説明し同意を得ている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は希望に応じて本人に渡し、ゆっくりと会話を楽しまれている。希望があればご家族の了解を得て事業所から電話をすることもある。今後、年賀状や手紙が出せるよう支援していきたい		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには利用者様と一緒に作った作品や花を飾り季節感を感じて頂くようにしている。またトイレやお風呂の出入り口には大きな表示板を取り付け色などに工夫し不快にならないよう配慮している	トイレや壁に季節感が伝わるような配慮をしている。	リビングの壁にも多少スペースが見受けられるので、遠足や記念の集合写真や食事時の楽しさが満ち溢れたスナップ写真などの掲示を期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファを設置している。テーブルの配置は随時変更して変化を出せるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	寝具やタンス、写真等愛着のある物を持参して頂き個人個人に合わせた部屋作りを心がけている	ベッド生活であっても、利用者の家庭と同じような部屋作りをし、まさに自宅で生活をしている雰囲気づくりに徹している。	居心地良い生活をするためにも利用者の体調に合わせた部屋の照度、温度、湿度調整にも気配ってほしい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室は分かり易いように大きな表示をしている。利用者の身体状況に合わせて環境整備に努めている		